

## EICU に入室された患者さんへ

看護学研究科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

### 記

研究課題名	集中治療室での早期リハビリテーションプロトコルの有用性
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 道勇 学
担当科等	看護学部 病態治療学
研究責任者	(職名)教授 (氏名)大須賀浩二
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	非該当
研究の意義・目的	現在の日本では、集中治療後にも障害(集中治療後症候群)を抱えて生活をしている患者さんが多くいます。それらを予防する目的に当院 EICU 病棟では看護師による早期リハビリテーションプロトコルを用いた看護を提供しています。早期リハビリテーションプロトコルの効果を明らかにすることにより集中治療後症候群を予防するための有益な知見が得られるものと考えています。
対象となる患者さん	2019年2月10日～2020年2月9日の間に当院 EICU 病棟へ入室した患者さんを対象とします。
研究の方法	患者さんの電子カルテデータから情報収集し、EICU 在室中の看護師によるリハビリテーションの実施状況と、退院時の歩行状況の関連を調査します。
研究期間	研究実施承認日～2023年3月31日
研究に用いる試料・情報	性別、年齢、入院時主となる疾患、栄養状態、意識レベル、血圧、体温、医師記録、看護記録、リハビリ記録、採血結果、使用薬剤など。 また、研究結果は発表会や論文などで公開されますが、患者さんの個人を特定できる情報は利用しません。
外部への試料・情報の提供	なし
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究の情報提供を希望しない場合においても、今後の治療を含め一切の不利益を生じることはありません。 本研究への情報提供を希望しない方は、2022年9月30日までに下記連絡先までお申し出ください。なお、統計処理開始後には取得したデータが削除できないことをご承知ください。
問い合わせ先	研究者氏名：当間健治

	<p>所属：愛知医科大学 看護学研究科 臨床実践看護領域 高度実践看護 師(診療看護師 [ NP コース ] ) 大学院生 電話番号：0561-62-3311(内線：23092) 研究責任者氏名：大須賀浩二 所属：愛知医科大学 看護学部 病態治療学 教授 電話番号：0561-62-3311(内線：22318)</p>
--	---